

No	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の到達目標	備考	DP1	DP2	DP3
				必修	選択	自由			高度な専門性と学識	豊かな教養	自律・協働する力と物事をかたちにする力
									DP1-1	DP2-1	DP3-1
								動物学に関する最先端の科学技術を用い、高度な学識と技能に基づいて研究を遂行できる。	獣医学、獣医関係分野で研究の国際化に対応できる実践的なコミュニケーションができる	生命の科学的理解と論理的思考、高い生命倫理観と研究者倫理観に基づき、研究者あるいは高度専門士として、自ら課題を追究し、獣医学を取り巻く諸問題に対応または解決できる	リーダーとして高い教養を備え、社会で活躍できる
1		基礎獣医学特別講義（動物細胞機能学特別講義）	1・2・3		2	自分および他人の研究を理解することができる。自分の研究についての分析ができる。未知の研究についての情報収集することができる。未知の内容を研究する意欲と他者を理解する姿勢を持つことができる。課題と提案性を身に付けることができる。自分の考えを相手にうまく、効率よく伝えることができる。自分の考えを裏書きで表現することができる。		◎	○		
2		基礎獣医学特別講義（発生遺伝学特別講義）	1・2・3		2	動物の発生学全般について理解することができる。獣医学に必要な科学的思考を涵養することができる。幅広く生命の成り立ちに興味を持つことができる。学問に真摯に取り組む姿勢を身に付けることができる。積極的に自分の考えを述べることができる。臨床・臨床に応用可能な知識を習得することができる。		◎	○		
3		基礎獣医学特別講義（生物機能薬理学特別講義）	1・2・3		2	自身の分野以外を幅広く理解している。様々な情報を元に、データに基づく思考ができる。積極的に学ぶことができる。		◎	○		
4		基礎獣医学特別講義（分子薬理学特別講義）	1・2・3		2	一般的な細胞内シグナルについて説明できる。専門的な内容を理解できる。積極的に専門性の論文を読むことができる。積極的に議論に参加できる。自身の理解に基づいたプレゼンテーションを行うことができる。理解しやすいプレゼンテーションスライドを作成できる。		◎	○		
5		基礎獣医学特別講義（獣医生理生化学特別講義）	1・2・3		2	動物の生命維持に関わるメカニズム全般について理解することができる。幅広く生命の成り立ちに興味を持ち、学問に真摯に取り組む姿勢を身に付ける。専門的な論文の内容を理解してデータに基づく思考ができる。質疑応答に積極的に参加し、自分の考えを述べるることができる。		◎	○		
6		基礎獣医学特別講義（動物細胞工学特別講義）	1・2・3		2	動物の細胞の種類と機能について説明できる。動物の細胞の応用について説明できる。動物の細胞の応用について興味を持ち、自発的に議論することができる。		◎	○		
7		応用獣医学特別講義（病原微生物学特別講義）	1・2・3		2	最新の動物由来病原体について理解できる。動物由来感染症の発生について理解できる。動物由来感染症の対策について理解できる。		◎	○		
8		応用獣医学特別講義（実験病理学特別講義）	1・2・3		2	正常な形態・機能の知識と病理発生機構を理解している。異常状態を種々の方法から再構築できる。知識として様々なモデルを理解した上で、新規の知見からモデルを新たなツールとしての可能性を考察することができる。既存のモデル等と病態との関連に興味を持つことができる。質疑応答が的確にできる。		◎	○		
9		応用獣医学特別講義（感染免疫学特別講義）	1・2・3		2	様々な病原体について基礎的な知識を習得している。病原体についての関心、興味を抱くことができる。		◎	○		
10		応用獣医学特別講義（病原細菌学特別講義）	1・2・3		2	細菌の病原性について説明できる。感染制御法について説明できる。社会的な責任について説明できる。他者と議論できる。検出法、検査法について理解できる。感染経路について関心を持てることができる。		◎	○		
11		応用獣医学特別講義（細菌遺伝学特別講義）	1・2・3		2	細菌の遺伝子操作について理解している。遺伝子組み換え生物の許し込みについて判断できる。		◎	○		
12		応用獣医学特別講義（感染症学特別講義）	1・2・3		2	感染症学の基本概念を学び、身につけている。発生パターンと発生機構を考察できる。自主的に取り組むことができる。疫学の解析法を理解している。国際的な視点をもっている。		◎	○		
13		応用獣医学特別講義（人獣共通感染症学特別講義）	1・2・3		2	国内外における人獣共通ウイルス感染症の概要およびそれに対する対応を理解している。人獣共通ウイルス感染症の発生、流行に際して適切な情報提供ができる。国内外における人獣共通ウイルス感染症に目を向け、新しい情報を知り入れる事ができる。主体的に考え、行動することができる。人獣共通ウイルス感染症に関する論文等を薄くなく読むことができる。他者に内容を正確に説明できる。		◎	○		
14		応用獣医学特別講義（獣医微生物学特別講義）	1・2・3		2	獣医微生物学を理解している。		◎	○		
15		応用獣医学特別講義（栄養代謝学特別講義）	1・2・3		2	動物の栄養代謝の基礎概念を、個体から分子のさまざまなスケールにおいて理解している。自身や他者の研究データを解釈する際に、栄養代謝の基本的な考慮点を入れた解釈ができる。栄養代謝の理解に関心をもち、その知識を自分の研究に応用する意欲を持っている。自身の研究の進め方を主体的に考え、本授業を含む、他分野の知識の応用を認めることができる。自身の研究を、他者に理解しやすいように適切な方法で伝えることができる。知識を取り入れる際に、自身の研究に関連させる姿勢を身につけている。		◎	○		
16		応用獣医学特別講義（写臨床細菌学特別講義）	1・2・3		2	菌において監視感染症に分類される細菌感染症に対する基礎的な知識を習得している。細菌感染症の診断・治療法について理解している。抗菌薬の使用法について論理的な考え方ができる。		◎	○		
17		応用獣医学特別講義（病原ウイルス学特別講義）	1・2・3		2	ウイルスの性質、ウイルスと宿主の相互作用、ウイルスの病原性、新興・再興ウイルス感染症を理解している。基礎科学的な成業を感染症分野の問題に活用する方法を論理的に考え理解することができる。感染症を理解することに関心を持ち、その知識を自分の研究に応用する意欲がある。議論に積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。		◎	○		
18		応用獣医学特別講義（獣医病理学特別講義）	1・2・3		2	代表的な動物の疾患について、病変の特徴を説明できる。代表的な動物の疾患について、その発生機構を説明できる。動物の疾患について、新たな知識を取り入れることができる。自律の考えに基づき積極的に行動できる。動物の疾患に関する論文を読み、その内容をわかりやすく伝えることができる。		◎	○		
19		応用獣医学特別講義（環境感染症学特別講義）	1・2・3		2	病原細菌の生態や宿主について体系的に説明できる。論理的な思考により、種々の課題に対する解決方法を提示することができる。自主性を発揮して取り組むことができる。自主的かつ積極的に取り組むことができる。専門知識を深く理解し、それを他者に適切に説明・表現することができる。当該分野への関心を持って取り組むことができる。		◎	○		
20		臨床獣医学特別講義（低侵襲外科学特別講義）	1・2・3		2	小動物の様々な疾患に対する低侵襲治療および再生医療について理解している。動物の種や疾患に対する低侵襲治療および再生医療について、多角的に思考し、総合的に判断することができる。動物に優しい治療および再生医療について主体的に考え、プレゼンテーションおよびディスカッションに積極的に参加できる。低侵襲治療および再生医療の観点から、真摯に動物に向き合い、最新の知見習得に努力できる。英語文献資料を適切に収集分析し、自らの考えを加え適切に発表できる。		◎	○		

58	臨床獣医学特別講義（産業動物実用学特別講義）	1・2・3	2	牛の疾患の診断、病態説明、治療および予防法の理論や技術を理解する。特に牛の栄養に関する疾患の診断、治療および予防法について理解する。	◎		○		
59	研究者行動規範特論	1・2・3	1	責任ある研究行為、研究活動における不正行為について理解を深め、研究者として倫理的な判断力と行動力とを身につける。				◎	
60	知的財産特論	1・2・3	1	大学院生にとって研究を進める上で知的財産権の知識は必須である。この講義では、知的財産権の全体像、著作権法の概要、研究倫理、特許法、意匠法、商標法等について、判例や事例と関連付けながら、研究の研究者・専門職の実務に活かせる要点を学びます。				◎	
61	専門科学英語スキル	1・2・3	1	獣医学領域の英文論文が理解できる。 英語で研究発表を発表できる。 英語の重要性を理解できる。 積極的に発表できる。 英語の真摯な応答ができる。 他者と協調できる。		◎			
62	プレゼンテーションスキル	1・2・3	1	プレゼンテーション能力を身につけることができる。		◎		※ 獣医学コースのみ必修	
63	学術情報収集スキル	1・2・3	1	学術学会等に参加して最新の学術情報を聴取することができる。 また、発表者に質問することができる。	◎		○		※ 獣医学コースのみ必修
64	機関研修スキル	1・2・3	1	博士課程の研究に有用となる知識を修得することができる。 博士課程の研究に有用となる技術を修得することができる。	◎				※ 獣医学コースのみ必修
65	特別専修スキル	1・2・3	3	実験計画の立案、各種実験方法、文献の理解などを体得することができる。 得られた実験結果や知識をもとに、事象の真実を導き出すことができる。 積極的にアイデアを出し、研究を進めるようにすることができる。 日々休まずに取り組むことができる。 学会発表および論文投稿にまで進め上げることができる。	○			◎	※ 獣医学専修コースのみ必修
66	基礎獣医学特別演習（動物細胞機能学特別演習）	1・2・3	2	自分の研究を分析する 研究の基礎となる論文を精読し、その内容を理解する。 自分の研究の遂行に何が必要なのかを検証する 必要な情報を収集できる 関連分野の研究を理解する 基礎分野を探索する 熟慮と真摯さを持って取り組むことができる 自分の考えを相手にうまく、効率よく伝えることができる 自分の考えを英語で表現することができる	◎			◎	
67	基礎獣医学特別演習（発生遺伝学特別演習）	1・2・3	2	動物の発生学全般について理解する。 獣医学に必要な科学的思考を涵養する。 幅広く生命の成り立ちに興味を持つようにする。 学問に真摯に取り組む姿勢を身につける。 積極的に自分の考えを述べることができる。 基礎・臨床に活用可能な知識を習得する。	◎			◎	
68	基礎獣医学特別演習（生物機能薬理学特別演習）	1・2・3	2	現在の生命科学でなにが行われているか理解する 最新の情報も基に、研究の方向性を決定する判断力を育む	◎			◎	
69	基礎獣医学特別演習（分子薬理学特別演習）	1・2・3	2	細胞内シグナル伝達研究に必要な各種実験手技の原理を理解する。 技術の理解を通して、自身の研究に活用できる。 各種実験手技の原理を説明できる。	◎			◎	
70	基礎獣医学特別演習（獣医生理生化学特別演習）	1・2・3	2	動物の生命維持に関わるメカニズム全般について理解する。 獣医学に必要な科学的思考を涵養する。 自分の研究を正確に分析し、研究の基礎となる論文を精読して、その内容を理解する。 自分の研究の遂行に何が必要なのかを検証し、必要な情報を収集できる。 幅広く生命の成り立ちに興味を持ち、学問に真摯に取り組む姿勢を身につける。 積極的に自分の考えを述べることができる。 論文作成に関する基本知識や作成上の注意点を理解することができる。 作成に關しての論理的な思考法の確立ができる。 プレゼンテーション技能を身につけることができる。	◎			◎	
71	基礎獣医学特別実験（動物細胞機能学特別実験）	1・2・3	2	自分の研究を理解する 自分の研究を遂行するための方法論の理解とスキルの習得 科学的に正確な結果とは何かを理解している 他者と科学的な議論ができる 関連分野の研究を理解する 基礎分野を探索することができる 熟慮と真摯さを持って取り組むことができる 自分の考えを相手にうまく、効率よく伝えることができる 自分の考えを英語で表現することができる 次の研究に必要なことは何かを理解している	◎			◎	
72	基礎獣医学特別実験（発生遺伝学特別実験）	1・2・3	2	動物の発生学全般について理解する。 獣医学に必要な科学的思考を涵養する。 幅広く生命の成り立ちに興味を持つようにする。 学問に真摯に取り組む姿勢を身につける。 積極的に自分の考えを述べることができる。 基礎・臨床に活用可能な知識を習得する。	◎			◎	
73	基礎獣医学特別実験（生物機能薬理学特別実験）	1・2・3	2	基礎的な実験技術と最新の技術を習得する 実験手法の原理を学び、すべての所作が何のために必要かを考えることができる 積極的に行うことができる	◎			◎	
74	基礎獣医学特別実験（分子薬理学特別実験）	1・2・3	2	細胞内シグナル伝達研究に必要な各種実験手技の理論を理解する。 技術習得を通して、自身の研究に活用できる。 各種実験手技をプロトコルをみながら行うことができる。	◎			◎	
75	基礎獣医学特別実験（獣医生理生化学特別実験）	1・2・3	2	自分の研究を理解し、 自身の研究を遂行するための方法論の理解とスキルの習得ができる。 技術習得を通して、自身の研究に活用できる。 他者と科学的な議論ができる。	◎			◎	
76	応用獣医学特別演習（病原微生物学特別演習）	1・2・3	2	動物由来感染症に関する論文を理解し、まとめることができる。 動物由来感染症に関する論文を執筆することができる。 自分の研究をまとめてプレゼンする能力が得られる。	◎			◎	
77	応用獣医学特別演習（実験病理学特別演習）	1・2・3	2	論文作成に關しての基本知識や作成上の注意点を理解を得ることができる。 作成に關しての論理的な思考法の確立ができる。 情報収集に關しての応用が見ることができる。 プレゼンテーションに關する技能を身につけることができる。	◎			◎	
78	応用獣医学特別演習（感染免疫学特別演習）	1・2・3	2	ウイルス感染症の病原性発現に関する基礎および応用的研究を行い、ウイルス進化や新たなウイルスの出現メカニズムおよび宿主の感染応答について理解を深め、ウイルス感染症の制御方法および、病因、成立要因、発病機序、疫学、生体防御、診断、治療、予防に関する知識を習得することができる。 ウイルス感染症の病原性発現に関する基礎および応用的研究を行い、ウイルス進化や新たなウイルスの出現メカニズムおよび宿主の感染応答について理解を深め、ウイルス感染症の制御方法および、病因、成立要因、発病機序、疫学、生体防御、診断、治療、予防に関する思考を深めることができる。 自主的に学んでいく姿勢を身につけることができる。	◎			◎	
79	応用獣医学特別演習（病原細菌学特別演習）	1・2・3	2	細菌の病原性について説明できる。 感染制御法について説明できる。 社会的な重要性について説明できる。 他者と協調できる。 検出法、検査法について理解することができる。 感染症について関心を示すことができる。	◎			◎	
80	応用獣医学特別演習（細菌遺伝子工学特別演習）	1・2・3	2	細菌の病原性と、細菌の遺伝子操作について説明できる。 科学的な測定値に基づき、細菌および宿主の状態を正確に判断できる。 該当分野の社会的な重要性を説明できる。 バイオセーフティとバイオセキュリティに則して細菌を取り扱うことができる。 細菌の検査、分離、遺伝子操作を行うことができる。 積極的に取り組むことができる。	◎			◎	

81	応用獣医学特別演習 (感染症学特別演習)	1・2・3	2	各種感染症に関する感染・伝播メカニズム、拡散リスクについてそれぞれの違いを理解し、有効な対策を検討することができる。 理論的な思考、判断を実施できる。 関心を持って物事に取り組むことができる。 積極的に学ぶことができる。	◎	◎
82	応用獣医学特別演習 (人獣共通感染症学特別演習)	1・2・3	2	国内外の人獣共通ウイルス感染症の診断法を理解する。 人獣共通ウイルス感染症の発生、流行に際して正しい診断ができるようになる。 国内外における人獣共通ウイルス感染症に目を向け、新しい情報を常に取り入れる事ができる。 主体的に考え、行動することができる。 人獣共通ウイルス感染症の診断法を実践し、他者に手技を正確に説明・指導することができる。	◎	◎
83	応用獣医学特別演習 (獣医微生物学特別演習)	1・2・3	2	獣医微生物学について理解することができる。	◎	◎
84	応用獣医学特別演習 (獣医病理学特別演習)	1・2・3	2	病理診断における基礎的な概念や技術について説明できる。 実症例の病理発生や病態について説明できる。 動物の疾患について、新たな知識を取り入れることができる。 自信の考えに基づき積極的に行動できる。 実症例について検討し、その内容をわかりやすく伝えることができる。	◎	◎
85	応用獣医学特別演習 (環境感染症学特別演習)	1・2・3	2	病原細菌の取り扱い方や、種々の解析方法の原理が説明できる。 種々の解析手法を自身の研究に応用できる。 自主性を持って取り組むことができる。 積極的に取り組むことができる。 理解した解析技術・手法を応用した研究を展開できる。	◎	◎
86	応用獣医学特別演習 (栄養代謝学特別演習)	1・2・3	2	栄養代謝学・動物衛生学に関する最新の知見と技術を修得することができる。 栄養代謝学・動物衛生学における諸問題に対して科学的評価をすることができる。 栄養代謝・動物衛生の理解に関心を持ち、その知識を自分の研究に応用する意欲を持つことができる。 自身の研究の進め方を主体的に考え、本授業を含む、他分野の知識の応用を試みることができる。 自身の考察を、他者に理解しやすいように適切な方法で伝えることができる。	◎	◎
87	応用獣医学特別実験 (病原微生物学特別実験)	1・2・3	2	動物由来病原体の性状を解析できる。 動物由来病原体の診断ができる。 動物由来病原体に対する疫学調査を実施できる。	◎	◎
88	応用獣医学特別実験 (実験病理学特別実験)	1・2・3	2	各種実験方法の原理に関する知識とその理解を得ることができる。 実験手法でのトラブルシューティングが可能になる。 実験開始時における、準備作業が求められる。 積極的に行うことができる。 結果に関する考察等の表現を身に付けることができる。	◎	◎
89	応用獣医学特別実験 (感染免疫学特別実験)	1・2・3	2	ウイルスの取扱いおよび感染動物の取扱い方法を習得できる。 ウイルスの複製と進化を学ぶための基礎的な解析方法、感染免疫学における基礎的技術について修得することができる。 ウイルスの複製と進化を学ぶための基礎的な解析方法、感染免疫学における基礎的技術について修得するための思考を得ることができる。 自主的に文献などを読み、意欲と思考力について深く理解することができる。	◎	◎
90	応用獣医学特別実験 (病原細菌学特別実験)	1・2・3	2	細菌の病原性について説明できる。 感染制御について説明できる。 社会的重要性について説明できる。 他者と協働できる。 検出法、検査法について理解することができる。 感染症について関心を示すことができる。	◎	◎
91	応用獣医学特別実験 (細菌遺伝子工学特別実験)	1・2・3	2	細菌の病原性と、細菌の遺伝子操作について説明できる。 統計的な測定値に基づき、細菌および宿主の状態を正確に判断できる。 検査分野の社会的重要性を説明できる。 バイオセーフティ/バイオセキュリティに則して細菌を取り扱うことができる。 細菌の検査、分離、遺伝子操作を行うことができる。 積極的に取り組むことができる。	◎	◎
92	応用獣医学特別実験 (感染症学特別実験)	1・2・3	2	感染症病原体を取り扱う実験手法について、基礎から応用までを正確に実施することができる。 理論的思考し、判断を行うことができる。 意欲をもって取り組むことができる。 感染症病原体を取り扱う実験技術を身につけることができる。	◎	◎
93	応用獣医学特別実験 (人獣共通感染症学特別実験)	1・2・3	2	国内外の人獣共通ウイルス感染症の診断法を理解する。 人獣共通ウイルス感染症の発生、流行に際して正しい診断ができるようになる。 国内外における人獣共通ウイルス感染症に目を向け、新しい情報を常に取り入れる事ができる。 主体的に考え、行動することができる。 人獣共通ウイルス感染症の診断法を実践し、他者に手技を正確に説明・指導することができる。	◎	◎
94	応用獣医学特別実験 (獣医微生物学特別実験)	1・2・3	2	獣医微生物学について理解することができる。	◎	◎
95	応用獣医学特別実験 (獣医病理学特別実験)	1・2・3	2	病理学分野で一般に用いられる組織学的手法について説明できる。 病理学分野で一般に用いられる組織学的手法の原理や活用方法について説明できる。 組織学的手法を中心に新たな技術やその原理を取り入れることができる。 自信の考えに基づき積極的に行動できる。 実症例について検討し、その内容をわかりやすく伝えることができる。	◎	◎
96	応用獣医学特別実験 (環境感染症学特別実験)	1・2・3	2	病原細菌の取り扱い方や、種々の解析方法の原理が説明できる。 種々の解析手法を自身の研究に応用できる。 自主性を持って取り組むことができる。 積極的に取り組むことができる。 習得した解析技術を応用した研究を展開できる。	◎	◎
97	応用獣医学特別実験 (栄養代謝学特別実験)	1・2・3	2	栄養代謝学および動物衛生学に関する実験手法に習熟することができる。 栄養代謝と動物衛生に関する実験を、原理を考察しながら実施することができる。 栄養代謝と動物衛生の理解に関心を持ち、その知識を自分の研究に応用する意欲を持つことができる。 自身の研究の進め方を主体的に考え、本授業を含む、他分野の知識の応用を試みることができる。 習得した実験手法を、自身の研究の目的に合わせて応用することができる。	◎	◎
98	臨床獣医学特別演習 (獣医療科学特別演習)	1・2・3	2	臓器別の各疾患に対する循環器外科的手法について基礎的な知識を身に付けている。 臓器別の各疾患に対する循環器外科的手法の実践における注意事項・改善点について考察できる。	◎	◎
99	臨床獣医学特別演習 (腫瘍学特別演習)	1・2・3	2	小動物の腫瘍性疾患に対する最新の診断と治療技術、特に放射線治療の立案法を理解している。 小動物における腫瘍性疾患に対して、外科治療、放射線治療に関心を持ち、自ら最新の知識の修得に努力ができる。 授業・演習に対して積極的に取り組むことができる。	◎	◎
100	臨床獣医学特別演習 (小動物臨床免疫学特別演習)	1・2・3	2	様々な論文を自分で読みこなすことができる。 論文の内容について批判的に読むことができる。 最新の文献について自分で積極的に情報収集できる。	◎	◎
101	臨床獣医学特別演習 (寄生虫学特別演習)	1・2・3	2	寄生虫学分野の基礎知識の確実な習得と事象説明ができる。 科学的思考ができる。 学習意義を認識して学習に取り組むことができる。 能動的に学習に取り組むことができる。	◎	◎
102	臨床獣医学特別演習 (進化系統寄生虫学特別演習)	1・2・3	2	獣医・畜・水産学分野で問題となる寄生虫に関する基礎知識を身に付け、それらの寄生虫により引き起こされる種々の問題の解決において基礎生物学的研究が果たす意義について理解している。 論理的に思考し、種々の寄生虫の対策につながる基礎研究がどのようなものかを判断することができる。 自主的かつ積極的に取り組むことができる。 専門用語を用いて口頭および文章で適切に表現できる。	◎	◎

コース科目（研究推進科目）

103	臨床獣医学特別演習（畜業動物獣医学特別演習）	1・2・3	2	<p>肉用および乳用牛の生産獣医学について十分に理解し、その原因、診断と対応法などを説明できる。牛の生産獣医学や臨床薬理に関する関心を高めることができる。</p> <p>牛の生産性を阻害する潜在的な要因に対して、生産獣医学や臨床薬理学の観点から適切な対応を実践できる。</p> <p>牛の生産性を阻害する潜在的な要因に対して、生産獣医学や臨床薬理学の観点から適切な対応を飼養者に対して説明できる。</p>	◎	◎		
104	臨床獣医学特別演習（繁殖生理管理学特別演習）	1・2・3	2	<p>繁殖生理管理学について十分な知識・能力を身に付けている。</p>	◎	◎		
105	臨床獣医学特別演習（大動物救急外科学特別演習）	1・2・3	2	<p>e-ラーニングを用いて馬救急医療に必要な診断および治療法の選択ができる技能および知識を習得している。集中実習では馬の診察系統別・臓器別診断法ならびに治療法についてHands-on臨床実習を通じて、実践能力を身に付けている。</p> <p>実際の臨床症例についてグループディスカッションならびに症例ディスカッションを行い、高い早期診断能力を身に付けている。</p> <p>ディスカッションや実習へ積極的に参加し、自ら疑問を解消し解決できる。</p> <p>集中実習、グループディスカッション、症例ディスカッションに積極的に参加できる。</p> <p>馬救急医療の診断法、治療法および予後判断について正しく説明できる。</p> <p>継続的な自己研鑽を行うための手法を身に付けている。</p>	◎	◎		
106	臨床獣医学特別演習（疫学制御学特別演習）	1・2・3	2	<p>産前期における外科的視鏡の種類とそれらの視鏡に対する身体的生体反応（ドクトライズ）と内分秘変化を説明できる。</p> <p>産前期の視鏡のモニタリング手法とその基本的原理について、解説できる。</p> <p>産前期に生じる生体視鏡に対する制御法について、理解し、解説することができる。</p> <p>疼痛の発生、伝達、認知のメカニズムを解説し、薬理的制御法について、解説できる。</p>	◎	◎		
107	臨床獣医学特別演習（生種工学特別演習）	1・2・3	2	<p>家畜の体外妊地養技術を理解し説明できる。</p> <p>家畜の総経路法を理解し説明できる。</p> <p>家畜生産及び種の保存に対してこれらの技術のメリットとデメリットを説明できる。</p> <p>専門誌を理解し内容について討議できる。</p>	◎	◎		
108	臨床獣医学特別実験（低侵襲外科学特別実験）	1・2・3	2	<p>様々な治療に付随する合併症、副作用に関する知識を習得している。</p> <p>低侵襲外科に必要な器具（例：消化管内視鏡、腹腔鏡鉗子、血管カテーテルなど）について理解している。</p> <p>また、獣医学臨床にも触れ、最新の知識を習得し、現在の問題点、改良点を見出し、新規治療に繋がるシーズを培うことができる。</p>	◎	◎		
109	臨床獣医学特別実験（腫瘍外科学特別実験）	1・2・3	2	<p>内視鏡外科の基礎、および基本的技術を理解している。</p> <p>内視鏡外科の腫瘍外科領域への適切な臨床応用を考慮することができる。</p> <p>①動物臨床における内視鏡外科に関心をもち、自ら最新の知識の獲得に努力できる。</p> <p>授業・実験に対して積極的に取り組むことができる。</p>	◎	◎		
110	臨床獣医学特別実験（小動物臨床免疫学特別実験）	1・2・3	2	<p>免疫学的実験手法について理解している。</p> <p>免疫学的手法を使用する場面について自身で提案することができる。</p> <p>積極的に免疫学的手法を実施することに取り組むことができる。</p> <p>正しく実験手法を実施できる。</p>	◎	◎		
111	臨床獣医学特別実験（寄生虫学特別実験）	1・2・3	2	<p>寄生虫学における基礎知識を理解し、適切に活用できる。</p> <p>科学的思考ができる。</p> <p>寄生虫ならびに寄生虫理解に積極的に取り組める。</p> <p>基礎的実験手法について理解し、直面的な課題解決に適切な手法を応用できる。</p>	◎	◎		
112	臨床獣医学特別実験（進化系統寄生虫学特別実験）	1・2・3	2	<p>主に人類共通感染症の原因となる寄生虫に関する基礎知識を身に付け、それらの寄生虫により引き起こされる種々の問題の解決において基礎生物学的研究が果たす意義について理解している。</p> <p>実験結果に基づいて論理的に思考し、種々の寄生虫の対策につながる基礎研究をどのように進捗するかを判断することができる。</p> <p>自主的かつ積極的に取り組むことができる。</p> <p>専門用語を用いて口頭および文章で適切に表現できる。</p>	◎	◎		
113	臨床獣医学特別実験（畜業動物獣医学特別実験）	1・2・3	2	<p>実験手法を正しく理解して実験を遂行することができる。</p> <p>科学的思考に基づいた実験計画を立案できる。</p> <p>自身の自主性に富み実験を立案できる。</p> <p>積極的に自主性を持って取り組むことができる。</p>	◎	◎		
114	臨床獣医学特別実験（繁殖生理管理学特別実験）	1・2・3	2	<p>繁殖生理管理学について十分な知識・能力を身に付けている。</p>	◎	◎		
115	臨床獣医学特別実験（大動物救急外科学特別実験）	1・2・3	2	<p>e-ラーニングを用いて馬救急医療に必要な診断および治療法の選択ができる技能および知識を習得している。集中実習では馬の診察系統別・臓器別診断法ならびに治療法についてHands-on臨床実習を通じて、実践能力を身に付けている。</p> <p>実際の臨床症例についてグループディスカッションならびに症例ディスカッションを行い、高い早期診断能力を身に付けている。</p> <p>ディスカッションや実習へ積極的に参加し、自ら疑問を解消し解決できる。</p> <p>集中実習、グループディスカッション、症例ディスカッションに積極的に参加できる。</p> <p>馬救急医療の診断法、治療法および予後判断について正しく説明できる。</p> <p>継続的な自己研鑽を行うための手法を身に付けている。</p>	◎	◎		
116	臨床獣医学特別実験（疫学制御学特別実験）	1・2・3	2	<p>産前期の視鏡のモニタリング手法を用いて、産前期に生じる生体視鏡を制御できる。</p> <p>疼痛の発生、伝達、認知のメカニズムを解説し、マルチモーダル鎮痛法、全身鎮痛、局所鎮痛を理解し、実施することができる。</p> <p>視鏡のたたらす生体反応を、各種薬理的な手法を用いて、制御できる。</p>	◎	◎		
117	臨床獣医学特別実験（生種工学特別実験）	1・2・3	2	<p>家畜の配偶子を用いた実験手法に習熟することができる。</p> <p>研究で得られたデータを科学的に解析し考察することができる。</p> <p>自主的に取り組み、結果について意欲的に討議できる。</p>	◎	◎		
118	自由科目 ジョブ型研究インターンシップ	1・2・3・4	2	<p>事前学習、インターンシップ体験、事後学習を通じて、トランスファラブルスキルなど、社会において実際に働く際に必要となる各種スキルの涵養を目指すと共に、就業体験を通じて自らのキャリアパスを考える機会とする。</p>	◎	◎		